

第63回 全国研究集会

2020年8月9日(日)・10日(月) 会場：京都三条 日昇館尚心寺

新型コロナウイルスの感染拡大が終息しない場合には集会は中止されます。→**宿泊の集会は中止です**



《研究主題》 問題解決学習で育む「資質・能力」

平成29年告示の学習指導要領では、「第1章 総則」に先立って前文が付けられています。そこでは、次のように述べられています。

「これからの学校には、……一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。」

今後の社会がめざす在り方と学校の役割が示されています。この点で「育むべき資質・能力」とは、「持続可能な社会の創り手」としての生き方といえます。

一方、本会の内部では、昨今私たちが実践してきた問題解決学習こそ「主体的・対話的で深い学び」の本来本元だという主張が聞かれます。同様に、前文で述べられている「自分のよさや可能性を認識するとともに、……豊かな人生を切り拓くことも、私たちが重視してきた「個」の生き方であると主張することもできるでしょう。

しかし、そのように主張するならば、次の点について考察を深める必要があります。

- ① 「持続可能な社会の創り手」として生きる人間は、どのような「個」であるのか。
- ② その「個」の生き方はどのような「資質・能力」によって支えられるのか。

— 誠実な対話力、確かな意志・情動、互恵的な人的つながり —

③ 問題解決学習は「持続可能な社会の創り手」としての「個」の確立を扶ける上で、どのような可能性を有し、どのような点で必要とされる学習活動の指導法なのか。

問題解決学習では、これまでの授業実践を通じて、例えば次のような能力と態度を有する「個」の育成をめざしてきました。

a：誠実な対話 自らの納得を求めて、自己を正しく主張すると同時に、他者の主張の背景を洞察し、相互に理解を深め合おうと誠実に対話する能力と態度。

b：確かな意志・情動 社会的正義の実現に向けて、自己の良心に従い、権威や時流を付度せず、少数者や弱者への共感を忘れず、確かな意志・情動に基づいて粘り強く取り組むという能力と態度。

c：互恵的な人的つながり 他者を抑圧・排除することなく、学級の友達や地域の人たちなどと互恵的につながり、協働的に課題の達成に取り組むという能力と態度。

子どもたちに育むこのような能力と態度を手掛かりに①②③について考察しましょう。そして、問題解決学習ではどのような「資質・能力」を有する「個」の確立を扶けるのか、問題解決学習の可能性と必要性について議論を深めましょう。

学年別分科会

A	小学3年 社会科	子どもが「問い」を持つ社会科授業をめざして —「私たちのくらしと商店」の実践から— 山田 一人 (所属校 熊本・熊本市立向山小学校 実践校 熊本・熊本市立託麻南小学校)	D	小学5年 社会科	子どもに委ね子どもの思いに応えられる教師になりたい — 確かな問題解決のある授業を目指して「地域をつなぐ有線放送」— 中野 邦彦 (所属校・実践校 長野・伊那市立伊那東小学校)
B	小学3年 道徳	この子の成長を願った道徳の授業づくり —「しあわせの王子」から子供を見取る— 渡辺 麻由 (所属校・実践校 東京・台東区立石浜小学校)	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <h3>シンポジウム</h3> <h4>問題解決学習で育む「資質・能力」</h4> <p>— 誠実な対話、確かな意志・情動、互恵的な人的つながり —</p> <p>鎌田 和宏 (東京・帝京大学) 川嶋 稔彦 (滋賀・岩根小学校) 荻野 嘉美 (愛知・ふるさと創造舎) (司会) 藤井 千春</p> </div>		
C	小学4年 体育総合	友達の問題提起の本質をつかもうとする子どもたち — 採点基準をつくっていった「グループマット」の授業— 岨 賢二 (所属校・実践校 兵庫・南あわじ市立神代小学校)			

集会日程

	1日目 8月9日(日)	2日目 8月10日(月)
7:00		朝食
8:30		学年別分科会
11:00	(運営委員会)	
12:00	受付	昼食
13:00	開会行事	シンポジウム
14:00		
14:15		閉会行事
		(運営委員会)
15:00		
15:20		
15:30		
17:00		
18:30		
19:00	夕食	
	自由交流の会	

わたしたちの考え方

- わたしたちの会は、つめこみ・教えこみの指導を排し、すべての教科に子どもが中心にいる生き生きとした授業の創造をめざしています。
- わたしたちの会は、ひとりひとりの子どもを人間として大切に、広い視野から個性的に考えることのできる子どもを育てようとしています。
- わたしたちの会は、問題解決学習をすることによって、ものごとの本質を見ぬき、新しい社会を創造する子どもが育つと考えています。
- わたしたちの会は、互いに励まし磨き合える人間関係を築き、授業実践にもとづいて主体的で地道な研究に努めています。

◆ 役員 ◆

会長 的場 正美 東海学園大学 事務局 長 水田 辰男 大阪
副会長 田上 哲 九州大学 〃 副局長 齊藤 公子 大阪
〃 柴田 好章 名古屋大学 編集部 長 松本 康 信州大学

◆ 案内 ◆

・本会は1958(昭和33)年に発足し、現在約800名の会員・誌友からなる全国的な組織です。

・本会は毎年8月初旬に全国研究集会を催す他、(部)ごとに研

究サークルによる

与しています。

種の集会に参

場合優先権を

新雑誌指定)は、

年5月現在、

ておりません。

100円、誌友は

誌代送料とも6,000円を前納します。

(会計年度は、毎年7月1日より新年度)

<郵便振替口座番号 00120-2-52161

社会科の初志をつらぬく会>

・入会を希望される場合は、下記事務局へメール

またはFAXでご連絡下さい。

本年度は、京都での宿泊を伴う集会は行いません
インターネットを利用した双方向のシンポジウム
を企画中です。詳細は『考える子ども』7月号及
び本ホームページでお知らせいたします。

《運営委員》

運営委員 大橋 静香 静岡 〃 川嶋 稔彦 滋賀
〃 川本 一也 三重 〃 近藤 久史 元・神戸女子大学
〃 園田 貴章 久留米大学

運営委員 田代 裕一 西南学院大学 〃 田村 高浩 愛知
〃 平山 恵子 東京 〃 福田 宏美 岡山
〃 堀 智晴 インクルーシブ教育研究所 〃 山根 栄次 元・三重大学

《会計監査》

会計監査 浅田 芳正 奈良 〃 古田島真樹 新潟

評議員 (五十音順)

市川 博 (神奈川) 傳田 伸剛 (長野) 松村 好雄 (長野)
川合 春路 (奈良) 戸崎 延子 (神奈川) 水戸貴志代 (広島)
影山 俱陸 (静岡) 中村 亨 (福岡) 八橋 久枝 (長野)
小林 宏己 (神奈川) 橋本 輝久 (三重) 山本 良苗 (静岡)
酒井 宏明 (愛知) 長谷川正巳 (愛知) 吉見 博史 (京都)
島本 恭介 (神奈川) 日比 裕 (愛知) 若林シゲミ (大阪)
霜田 一敏 (愛知) 深谷 孟延 (愛知)
鈴木 取 (愛知) 別木 達彦 (大分)

会への入会等 連絡先

社会科の初志をつらぬく会 本部事務局 〒573-1182 大阪府枚方市御殿山町12-22
別称・個を育てる教師のつどい 水田辰男 方 FAX 072-847-1611
国会HP <http://www.s-syoshi.com/> 事務局メール syoshi-aa@s-syoshi.com